

# 北海道国際理解教育研究協議会 会報

第 11 号  
代 表 職 員 登  
事務局 長 大 泉 弘  
事 務 局 板 垣 修  
発 行 1989  
10.10

## 第10回北海道国際理解教育研究大会 第4回 札幌国際理解教育研究大会

平成元年度までに本道より海外派遣に出られた仲間も 240名を数えるようになりました。また本会の発足から10年の経過を経て 海外派遣の経験のない先生方も仲間になって 共に研究を進めている支部も生まれて参りました。今日、我が国においては、政治、経済、文化等のあらゆる面で国際化を図ることが緊急な課題になっています。教育の分野におきましても 国際理解教育の推進が強く求められています。国際理解教育振興と教育現場における国際理解教育のあり方を求め続けて来ました本会が 旭川市での第8回大会より「帰国教師の会」から「研究協議会」へと変貌を遂げたのは国際理解教育は在外教育に携わった者だけの特別なものではないという認識を強く打ち出したからであります。また、八雲、森、七飯の三町で開催されました第9回大会は「地域や学校の特性を生かした国際理解教育」の究明に力が注がれ 国際理解教育は身近なところで実践できることを強くうたっています。第10回の札幌大会は「いつでも、どこでもできる国際理解教育」をめざし 教育活動全体とかわりをもつ国際理解教育が 毎日の教育活動の中でどのように実践できるかを取り上げることになっています。国際理解教育が強く叫ばれながら 学校でどのように実践化して行くかは 旭川、渡島の大会より指摘されている問題です。一人でも多くの会員の皆さんが札幌に御参集下さり札幌の仲間と共に、本道国際理解教育振興の魁となって下さることをお願い申し上げます。

事務局

## \*経過報告

6月10日までにについては、会報10号にて報告済み

6月12日	助成願い（北海道教育委員会）
7月17日	釧路海外事情研究会
8月 4日	全国海外子女教育研究大会（宮城）
5日	会長・事務局長・札幌支部より参加
9月 2日	第10会全道大会について道事務局と札幌事務局の 合同会議
9月 8日	石狩支部総会（札幌市）
9月12日	全道大会について北海道教育委員会と打ち合わせ
9月 日	渡島国際理解教育研究大会二次案内 11月7日 上磯三ツ石 石別中学校 “国際理解（教育）の望ましい在り方を求めて”
10月10日	会報11号発行
11月10日	第10回北海道国際理解教育研究大会・第4回札幌 国際理解教育研究大会開催
11日	
12月10日	会報12号発行予定

## \*各支部だより

### 釧路管内海外教育事情研究会

平成元年度 役員改選  
「釧路研究会報」No17号発行

### 石狩国際理解教育研究協議会

9月8日 総会及び懇親会  
役員改選と規約の決定

### 渡島国際理解教育研究会

11月7日（火） 研究大会  
10月21日が締切りとなっています。  
詳しくは 七飯町立大沼中学校 田口先生まで  
お問合わせください。

## 訃報

帯広市立明星小学校長 藤田 寛氏が今春6月にお亡くなりました。氏は、昭和54年度にバクダッド日本人学校長として派遣されました。イラン・イラク戦争のさなか 命を的にして校舎を守り抜きました。帰国後は 帯広市の学校長としてご活躍下さり、本会の役員を歴任されました。ご冥福をお祈り致します。

# ボンベイ日本人学校

当別小学校教諭 中村 一治

## 1. ボンベイの概略

インド・マハラシュトラ州の西岸、アラビア海に面したボンベイ市は、人口一千万人を数え港灣を中心とした商工業活動は、全インドの税収入の8割に達すると言われる。このような経済発展は、インドの他の都市には見られない高層アパートとビル群を生み出したが、その反面、農村から都市にその日の糧を得るために集まった人々が形成するスラムと呼ばれる貧民街も合せ持つことになった。

ベンツで私立学校に通う子もいれば、裸足で一日3時間授業の公立学校に通い、その後は商売に励むといった生活をしている子も多い。まだ学校に行ける子は良い方で、一生自分の名前すら書けずに終わる人もめずらしくない。

## 2. ボンベイ日本人学校の概略

ボンベイ日本人学校は、1965年に総領事館の付属施設として設置され、現在アラビア海に面した二戸建てバンガロー（高級住宅）を借りて校舎としている。建物が一般住宅であるため個々の教室は狭いが、職員室の

他普通教室9、理科準備室1、講堂1、WC5などの設備を配し、小学部・中学部合せて60名の児童・生徒数にとつては十分といえる。ただしグラウンドの施設はなく、日常の体育は前庭（10m×20m）を使って実施し、モンsoon（6月から9月までの雨季）以外は、週に2時間、市内にある鉄道会社の所有するクリケット競技場を借りて校外体育を実施している。

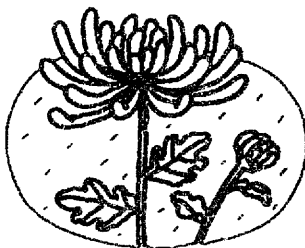
学校の指導体制は、派遣教員の9名、現地採用講師6名の計15名で当たっている。カリキュラムは日本と同様であることを原則としているが、小学部1年から英会話、小学部5年からのヒンディ語の講義があることが特徴となっている。指導者は現地人を講師として採用している。

## 3. 子どもの素顔

商社駐在員の子女がほとんどであるため、海外居住の経験は豊富である。言葉使用や礼儀も良く、学習態度も立派である。学習指導では、能力別に指導する必要も感じない程度である。生活指導の面でも、特殊環境ということもあって、非行に関することはほとんど心配されなかった。ただし、通学バスや乗用車

に群がる物乞の現状から、インドやインド人に対する下げすみや拒否の感情が根強く、現地理解の面で大きな障壁となっていた。父母の中にもその傾向が強く、英語講師をインド人から英国人にせよとか、インド人現地校交流は必要ないなどの発言にもなっていた。

ボンベイ校では、年に数回、国際理解の一環として現地の学校と交流をもってきたが、当初インド人の学校とだけの交流が、年を追うごとに現地にあるドイツ人学校、アメリカンスクールとの交流が主流になってきたのもその現れといえる。



# 事務局便り

## 1. 札幌大会へのご参集を!!

各会員のお手元には、すでに札幌大会（第二次案内）のご案内が届いていることと思いますが、大会参加申し込み締切りの期日が迫っております。万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。また、今回の第二次案内の配布には、各会員のご協力をいただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

## 2. 会費の完納をお願いいたします。

前回の会報第10号をお送りしましたときに、合わせて振替用紙を同封しております。未納の会員は、会費を送っていただきますようお願いいたします。尚、次号12号（12月10日発行予定）送付の際、例年行っていますように、各個人の納入状況の個票をお送りする予定で作業を進めております。

## 3. 各支部の活動状況

9月末日までに事務局及び広報部までご連絡いただきました支部からの状況を概略、掲載しました。各支部でも同様に活発な活動をされていることと思います。ぜひ、その様子を事務局までお知らせください。

## 4. 寄稿のお願い

今春、帰国されました中村 一治先生（石狩管内当別小学校）は、お忙しい中、『ボンベイ日本人学校』について執筆していただきました。字数の制限、学芸会等の制約にもかかわらず、まとめていただきました。厚く御礼申し上げます。

各会員の日常実践や国際理解教育にかかわる原稿をお待ちしております。事務局、あるいは広報部までお送りください。

## 5. 訂正のお願い

前号10号P5平成元年度 役員名簿に誤りがありました。  
訂正し謹んでお詫び申し上げます。

『監事』 水口 忠先生      古川 春朗先生



本田 正先生      坂下 晃一先生

尚、役員名簿につきましては、北海道評論社発行の1989年度版職員録P696に一括掲載されておりますのでご参照ください。